

# 共生

奈良県生協連

2018年 1月

NO.107



▲再エネ関連施設見学会  
～つくばね発電所～



▲第2回生協・行政協議会



◀奈良子ども食堂  
ネットワーク総会

## もくじ

新年のごあいさつ 森宏之奈良県生協連会長 … 1  
新年のごあいさつ 荒井正吾奈良県知事 …… 2  
再エネ関連施設見学会 …………… 3  
おじゃましました～奈良県立大学生協の巻… 4  
生協・行政協議会 …………… 5

核兵器禁止条約の批准を求める意見書 …… 6  
奈良子ども食堂ネットワーク総会 …… 7  
エイブル・アート近畿2017 …………… 8  
3.11を忘れない …………… 9  
防災フォーラム …………… 10

新しい年は、「奈良をよく知り、奈良をより深く愛し、  
奈良をより住みよい」たすけあいのある地域づくりを、  
協同組合原則のもと、忠実に励む年に。



奈良県生活協同組合連合会 会長 森 宏之

奈良県生協連の会員及び組合員のみなさん、新年おめでとうございます。

昨年は奈良県生協連の様々な活動に対し、大きなご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

昨年は、「平和とよりよき生活のために」、生活協同組合の活動を進める私たちにとって、大変喜ばしい世界的な出来事が2つありました。

1つは、国連総会全体会合で「2017年に核兵器禁止条約制定の交渉を開始する」決議が圧倒的な賛成で採択、核の非人道性が認識され、その非合法化と廃絶を目指す運動が開始されたことです。ヒバクシャの長年の訴えが国際世論となり、歴史的な前進をかちとりました。「これ以上被爆者を出さないで」と必死に訴える「ヒバクシャ国際署名」を世界中に広げ、「核と人間は共存できない」との主張とともに、必ずや各国の市民の力で核兵器禁止条約制定を実現させることが可能な状況が生まれました。

2つは、国連教育科学文化機関（ユネスコ）が、「協同組合の思想と実践」をユネスコ無形文化遺産に登録することを2016年11月に決定しました。協同組合が100カ国、10億人以上の組合員に広がっていることをふまえ、「共通の利益と価値を通じコミュニティを広げ様々な社会的な問題への創意工夫あふれる解決策を編み出している」と世界的に高く評価されました。協同組合は地域のコミュニティ形成に役立ち、雇用の創出や高齢者支援から都市の活性化や再生

可能エネルギープロジェクトまで様々な社会的な問題への創意工夫あふれる解決策を編み出していると評価されましたが、生活協同組合の活動をはじめ各分野の協同組合の仲間と連帯し、よりよい社会づくりに貢献できる段階になってきたことです。

さて、私たち奈良県の生協連合会は、ユネスコで評価された活動、食とくらし、環境、エネルギー、平和、福祉の5つの問題に直接的にかかわってきましたが、今年も「たすけあい協同の精神」を奈良県のすみずみに行き渡らせ、農協さん、森林組合さん、労働金庫さんなど協同組合の仲間の皆さんとの連携を強め、奈良県並びに県下市町村の皆さん、奈良県社会福祉協議会、奈良県地域婦人団体連絡協議会をはじめとした各団体の皆さんとの連携を強め、5つの問題にかかわりつつ「地域共生コミュニティづくり」を力いっぱい広げていく前進の年にしたいと思います。

奈良県生協連に集う会員役職員、組合員のみなさん、奈良県の組合員のくらしの向上のために、組合員の参加を土台にして、さらに奮闘いたしましょう。今年の干支は戌（いぬ）。協同組合原則に忠実に従い、積極果敢に行動し、研鑽努力を重ね、活動と事業を着実に進めて行くことが大切です。食とくらしの安心・安全を基礎に生協の利用を広げ、福祉・共済・医療の活動、消費税・税制やエネルギー改革を含む消費者問題、平和、被災地支援と防災、などの活動を奈良県のすみずみに今年も進めてまいります。

## 平成30年 新年ごあいさつ



奈良県知事 荒井 正吾

奈良県生活協同組合連合会、会員生協及び関係者の皆様、明けましておめでとうございます。

平成30年の年頭にあたり、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年10月には、台風21号に奈良県も襲われました。幸い人命の被害はなかったものの、農業、道路、河川、宅地等で大きな被害が発生しました。被害額は170億を超え、最近の被害の中では大きな額となりました。土砂崩れ、河川の氾濫、地震等の自然災害に対して強靱な県土を築いていくことが引き続き県政の課題です。貴連合会及び会員生協の皆様におかれましては、とりわけ被災地支援に積極的にお取り組みいただいておりますが、さらに、ご理解とご協力をいただきながら、県政を進めてまいりたいと思います。

また、災害の発生以外の県勢につきましては、幸い良い成果が上がってきているように見えます。それらを振り返りつつ、新たな年を元気を出して迎えたいと思います。

最近の県勢のうごきを知っていただきたく、いくつかの事例をご紹介します。

健康の分野では、「過去10年間のがん死亡率の減少幅が全国一になり、死亡率は全国34位から9位に改善」、「健康寿命は男性が全国3位、女性が全国18位（前年の28位から大幅改善）」、「救急搬送受入件数がE R型救急医療体制導入により大幅な増加（南奈良総合医療センターでは旧3病院のおよそ2倍）」などです。また、南奈良総合医療センターの開院に加え、五條病院のリニューアル

オープン、ドクターヘリの運航開始など医療体制が整ってきました。さらに、新奈良県総合医療センターが5月1日に開院します。経済の分野では、「就業地別有効求人倍率が昨年10月には1・58と過去最高（人手不足ということでもあります）、賃金上がることもなります」、「障害者雇用率は2年連続で全国1位」などです。

貴連合会におかれましても、健康づくりや、被災地支援から防災減災等まで様々な取り組みを推進しておられ、また、会員生協には、障害者雇用を積極的に推進しているところもでございます。今年も引き続き、貴連合会及び会員生協の皆様とは連携を密にして取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

さらに、奈良県経済発展の礎となるリニア中央新幹線の「奈良市附近駅」の20年後の完成がほぼ確実になってきました。具体的にどの場所になるかはこれから決まっていくこととなりますが、「奈良市附近駅」の整備完成を確実なものにし、県政発展に結びつける努力が必要となっています。インバウンド観光の取り組み、産業と研究機能の集結等に全力で知恵を出し、工夫をしたいと思います。

新しい都づくりの夢を見つつ、皆様にとって良き年になりますようお祈り申し上げます。

最後に、貴連合会及び会員生協の皆様のみますますのご発展を祈念申し上げて、新年のご挨拶といたします。本年もよろしくお願い申し上げます。



# 再エネ関連施設見学会

見学会先 (株)吉銘 田原本工場  
南奈良総合医療センター  
東吉野つくばね発電所

**10月13日、奈良県生協連主催で、奈良県内の再生可能エネルギー関連の企業や施設の見学会を実施しました。  
会員生協と大学生協の学生1名を含め、8名が参加しました。**



製造される木質ペレット(吉銘田原本工場)

奈良県生協連では、東日本大震災以降、再エネ普及の重要性の理解と「地域共生社会」の実現をめざし、「学びの場」として、2014年から奈良県内の再エネ利用施設の見学会を開催してきました。建設中だった東吉野村の「つくばね発電所」の市民ファンドへの理解者を広めるための見学会も開催してきました。

2017年4月に稼働開始した集成材製造会社(株)吉銘の木質ペレット製造工場、2016年夏稼働の南奈良総合医療センターの木質ペレットボイラー、そして2017年7月に稼働した「つくばね発電所(小水力)」を見学させていただきました。



南奈良総合医療センターペレットサイロ

奈良県内では県を中心にペレットストーブの導入が進められていますが、ペレットは県外から購入されています。奈良県産の木質ペレットが熱望され、緑の産業再生プロジェクトとして、集成材製造の吉銘が作るようになったようです。ペレットは集成材の端材からつくり1日約8t製造する能力があるそうですが、奈良県産の集成材の出荷はあまりないのが現状です。生木からつくるには乾燥させる必要があります、木質バイオマス利用が少しずつ進められてはいますが、まだまだ課題があることを実感しました。つくばね発電所では、2013年から準備を始め、4年越しで完成に至りました。タービン建屋と取水口を見学しました。落差105m 最大使用水量0.1m<sup>3</sup>/秒。出力82kW。年間発電量は646MWh(64.6万kWh)180軒分の電気使用量をまかなえるそうです。今後は環境教育の場として、つくばね発電所周辺の活用を検討していくそうです。



東吉野村つくばね発電所事務所にて説明

今回は、県立大学生協から4回生の学生1名も参加され、初めて見ることも多かったようです。地域活性化を考える上からも、会員生協とともに考えるよい機会となりました。

## なら再生可能エネルギー推進協議会(第1回) (主催:地域未来エネルギー奈良)

10月31日やまと会議室(奈良市登大路町)にて2017年度第1回なら再生可能エネルギー推進協議会が開催されました。県(エネルギー政策課、奈良の木ブランド課)、天川村、奈良市、平群町、斑鳩町、奈良県生協連、ならコープ、推進員や関係NPOなど合計30名が出席し、気候ネットワークの田浦健朗氏の進行で進められました。国際動向や全国の動き、県エネルギービジョンの推進状況、奈良県の木質バイオマス利用の取り組み、天川村の薪ボイラー導入の取り組みなどが報告されました。出席自治体や生協、NPOから報告があり、県内の再生可能エネルギーの情報を共有しました。NPO主導で始まり今年度で6年目になります。奈良県内では南部東部での送電線への接続制約があることや、林業の課題も大きいですが、少しずつ再エネの導入が進んでいることを共有しました。

# ＼おじゃましました／ ～奈良県立大学生協の巻～ 生協学生委員って輝いている!

奈良県立大学生協の学生自らがお店におすすめ商品を並べる「学生棚」があるとお聞きし、11月28日、奈良県立大学生協に取材に行ってきました。2回生の学生委員さん3名に集まっていただき、生協学生委員の活動についてお話をお聞きしました。



(左から)店舗部門長の服部有沙さん  
委員長の堀部七彩さん  
「おかし総選挙」を企画された山本菜々瀬さん

## Q.なぜ「学生棚」を作っているのですか？

・奈良県立大学は規模が小さいので、学生に少しでも応えられるようになればいいなあと考えました。店内の「フェア」を学生委員も企画しています。たとえば、みんなで分けられる大袋のお菓子を揃えたり、チョコレートフェアや抹茶フェアなどを企画しました。「県大声」という箱に「ひとことカード」で組合員の要望を書いて入れてもらいます。「おかし総選挙」も企画しました。



## Q.「おかし総選挙」って？

・20個のお菓子を学生委員が決めて、上位7個を学生に投票してもらいました。公示をして選挙ポスターを窓に貼って、応募用紙で1週間投票してもらいました。のべ170票の投票がありました。県立大は1学年160名で1～2回生が中心に食堂を利用するので、170票は多い方だと思います。

・今までは学生委員が品揃えを決めていましたが、「私ただけで決めていいの?」と思ったことから「総選挙」を企画しました。その他、サマーパーティ、オープンキャンパス、合宿セミナー、ウインターパーティなどを企画運営します。全て自分たちで企画運営するのでとても充実しています。



投票日6月15日～23日  
「あなたの一票ですべてが決まる」  
と投票を呼び掛ける



生協食堂の窓に「選挙ポスター」  
の掲示

▲チョコレートフェアや大山フェア  
学生委員が産地に行って学んだことを  
伝える商品のポップをならべる

どうして生協の学生委員になったのかと尋ねると、入学式の時に先輩の学生委員がとても輝いていたからとのこと。

「学生委員になって、遠くのセミナーに行き、他の大学の学生と交流がある。何もしていなかったら、小さいコミュニティのままだが、他の人と関わって刺激になる。毎日成長している実感がある。責任感が出る。学生の時代を無駄にしたくない」と語ってくれました。社会に出てもこの経験は活かされるでしょう。とても頼もしく思え、そして「輝いて」いました。

# 2017年度第2回「生協・行政協議会」を開催

11月16日、奈良県文化会館にて2017年度第2回目の生協・行政協議会を開催しました。



奈良県消費・生活安全課から姫野隆昭課長はじめ4名のご出席があり、奈良県生協連役員との懇談を行いました。奈良県生協連は10月に2018年度県政への要望書を提出しており、はじめに県から要望項目への回答について説明され、それをもとに意見交換を行いました。要望は、食の安心・安全の施策、安心してらせる地域づくりのための施策、消費者行政など、多岐にわたるものですが、現在すでに実施している施策や次年度の方向性など、それぞれ丁寧に回答をいただきました。とくに「安心してらせる地域づくり」については、健康づくり活動や見守り、奈良子ども食堂ネットワークへのかかわりなど、この間会員生協と県生協連の取り組みも多くなってきていることもあって関心が高く、活発な意見交換となりました。消費者問題では、「集団的消費者被害回復訴訟制度」が始まっていますが、集団訴訟そのものが消費者にはわかりにくいこともあり、周知を図ることが大切になります。県行政でも、相談窓口でのアドバイスなど協力をしていきたいとの回答がありました。

## 奈良県生協連「2018年度奈良県行政に向けての要望書」のポイント

### 1. 食の安全安心の施策について

- (1) 食の安全確保は県民の命と健康にかかわる重要課題と位置づけ、引き続き積極的に推進してください。
- (2) 消費者への食品衛生の正しい知識と食の安全確保対策の情報提供を強めてください。
- (3) 「ならHACCP」の導入がさらにすすみ、県内製造事業者の衛生管理が向上することを期待します。
- (4) 食品ロスや「倫理的な消費」等、幅広いテーマの学習活動に対し協力をお願いします。

### 2. 安心してらせる地域づくりのための施策について

- (1) 「奈良県地域福祉計画」のもと、つながりやいきがいのある住民活動を支援してください。
- (2) 退院後の在宅医療、困りごと解決の支援、介護負担の軽減などがすすむよう医療と介護分野の連携や住民参画支援等の必要な施策を講じてください。
- (3) 市民が行う健康づくり運動の広がりに県の協力をお願いします。
- (4) こどもの居場所づくりや学習支援などの活動実態を把握し活動の継続的な支援をしてください。
- (5) 住民の防災意識を高めてください。近隣県での大規模災害発生時の支援や避難者受け入れ等についても十分な準備をしてください。

### 3. 消費者行政の推進について

- (1) 事業者に対し告示内容を周知し訪問販売ルールを遵守するよう指導するとともに、消費者視点に立った健全で良質な事業活動を促進するよう事業者を指導・育成してください。
- (2) 集団的消費者被害回復訴訟制度の県民への周知と通知公告事案発生時の協力を要望します。
- (3) 消費者自身による学習と工夫を生かした消費者団体やグループの活動支援をお願いします。

### 4. 環境・エネルギーの施策について

- (1) 国のエネルギー基本計画見直しにあたり、再生可能エネルギーの重要性を国に対して伝えてください。
- (2) 奈良県産材を活用し、健康や省エネルギーに配慮した住まいの推進をすすめてください。

**奈良県生活協同組合連合会は2017年10月23日、  
安倍晋三内閣総理大臣に対し  
「核兵器禁止条約の批准を求める意見書」を提出しました。  
同条約への批准と、積極的な役割発揮を求めます。**

内閣総理大臣 安倍 晋三 殿

**意見書「核兵器禁止条約を批准し、核兵器廃絶に向けての  
主導的役割を果たすことを日本政府に求めます」**

本年7月国連において核兵器を違法とする核兵器禁止条約が122か国の賛成で成立し、9月には50か国以上の署名があり正式な発効に向けて動き出しています。また10月には核兵器廃絶に向けた行動が評価され、国際NGO「ICAN」がノーベル平和賞を受賞しました。「平和とより良き生活」をスローガンに活動する私たち奈良県生活協同組合連合会は、人類史上初めて核兵器廃絶への現実的な道がつくられたことと、国際社会挙げてその気運が高まっていることを心より歓迎しています。

この条約は、その前文において「ヒバクシャ」の苦難に言及し核兵器の非人道性を再確認しています。加盟国に開発・保有・実験・使用はもとより、核兵器による威嚇行為も禁じる画期的な内容で、第12条においては締約国でない核兵器保有国に対しても条約に参加する道を開いています。安全保障上の懸念と緊張が高まる現在の国際情勢において、今こそ核保有国とその傘下にある同盟国を含めた国・地域が多数参加し、条約を実効性のあるものにしていくことが何より重要です。

しかしながら、日本政府が終始一貫この条約に否定的な立場をとり続け成立後も署名をしないとしていることは誠に残念です。唯一の戦争被爆国である日本は、国際社会の先頭に立って核兵器をこの世からなくす取組みをすすめるべき立場にあります。2016年12月にも私たちは「日本政府は核兵器廃絶に向け国際社会のリーダーシップを!」との意見書を日本政府に対し発出しました。二度と同じ苦しみに会う人をつくってはならないというヒロシマ・ナガサキの被爆者の願いに寄り添い、平和で安心な暮らしを求める市民の願いに基づいて重ねて以下のことを日本政府に要請します。

日本政府は、核兵器禁止条約に署名・批准するとともに、核兵器保有国を含む条約非締約国にも批准を呼びかけ、核兵器廃絶に向けて世界のリーダーシップを発揮してください。

2017年 10月 23日  
奈良県生活協同組合連合会

# 奈良こども食堂ネットワーク総会

11月9日、橿原商工経済会館にて奈良こども食堂ネットワーク総会が開催され、会員18団体(31名) サポーター6団体(15名) 計46名が参加されました。

設立式・記念シンポジウムの報告後、規約と運営について質疑応答があった後、提案通り承認されました。

設立までに確認してきた内容に沿った、ゆるやかな約束事の規約であり、事業の企画・運営を担う「世話役団体」については、当面、設立時の呼びかけ団体が担うことになりました。

つづいて奈良県消費・生活安全課 本岡課長補佐による「食中毒の予防と対策について」講演がありました。「こども食堂」は、こどもと一緒に調理や配膳をする「つながりづくりの活動」。そうでないと保健所等の許可が必要となる一般的な食堂経営と変わりなくなってしまうとのことでした。その後、活動の悩みとネットワークに期待する事をテーマに、グループに分かれ情報交換をしました。出された意見は、世話人団体で検討し、活動に反映していく予定です。奈良県生協連は奈良県社協とともに事務局として参画していきます。



奈良こども食堂ネットワーク総会後の意見交換会のようす



「食中毒予防と対策について」講演会  
講師：消費・生活安全課 本岡課長補佐

## 「フードバンク奈良」設立に向けて

奈良でこども食堂を運営する有志が、「フードバンク奈良」を設立し準備を始めています。設立の背景には、自分たちのこども食堂が食材調達で苦勞し、大阪のフードバンクまで取りに行っている一方で、一つのこども食堂では使いきれないほどの単品の食材を企業や地元の方からいただく事例がでてきたためです。

廃棄される食品とそれを必要としている人たちとをつなぎ、食材を循環させることを目標に、まずは任意団体として12月5日に設立しました。設立記念セミナーとして「フードバンク関西」の浅葉代表を講師に講演会「フードバンクってなあに？」を2018年1月27日午後2時から4時までぶろぼの福祉ビルにて開催する予定です。まずは、「フードドライブ」活動を広め、自らもまた他の団体でもイベントの機会があれば開催していただくことを呼びかけていく計画です。奈良県生協連も応援していきたいと思えます。

## ◆「のまはら農園」からこども食堂へお米の提供

南相馬で旅館を営んでいた高橋周介さんは、東日本大震災で被災し、南相馬の故郷への思いを断ち切り、奈良市都祁社山町でスタートを切られました。「奈良県被災者の会」代表も務められています。高橋さんは吐山の方のご厚意で広い耕地を取得し本格就農され「のまはら農園」を経営されています。今年取れたお米(30kg入り玄米6袋)を、奈良県生協連を通じて、奈良のこども食堂に役立ててほしいと寄付の申し出がありました。「奈良こども食堂ネットワーク」を通じ、呼びかけたところ、6団体から申し出があり、新米を届けることができました。



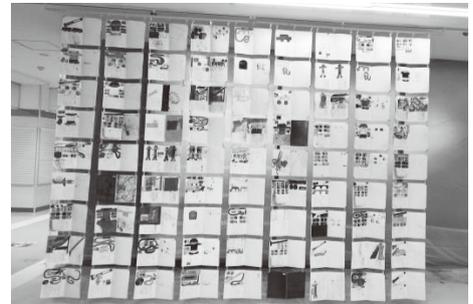
左からこども食堂ひまわりの中雅代さん、奈良県被災者の会事務局の田附絹子さん、高橋周介さん、

# エイブル・アート近畿2017“ひと・アート・まち奈良”

～障がいのある人もない人もアートを通してつながりを～

大和郡山  
で開催

大和郡山を舞台に、障がいのある人もない人もアートによって地域の魅力を発見する“エイブル・アート近畿2017「ひと・アート・まち奈良」”が12月8日から17日まで開催され、多くの人でにぎわいました。人間の可能性に挑戦しつながりをとりもどす市民芸術運動として近畿労働金庫主催で毎年開催され、奈良県生協連も趣旨に賛同して会員生協とともに協力をさせていただきました。気軽に立ち寄れる街角の会場「asmo郡山」や「柳花簾ギャラリー」「ふくせ」には、日々の営みの中から生まれた、想いがあふれる作品の数々が展示されました。プレ企画ワークショップの参加者の作品の展示や県内8か所の「プライベート美術館」のミニ・アート展など、楽しく作品にふれることのできる工夫もありました。鑑賞するだけでなく、参加しふれあうことで、アートがまちの人たちの素敵な出会いと楽しさを作り出しました。



メイン会場のasmo郡山に展示された「大和郡山抱擁芸術」の個性豊かな作品の数々。



参加者がつくった  
ワークショップの作品



旧履物屋「ふくせ」  
での展示

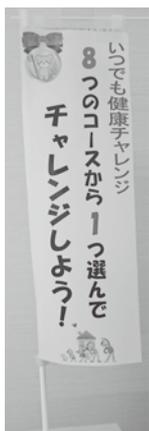


みみなし診療所の  
プライベート美術館

## 奈良県医療福祉生協 みみなし診療所

# 第5回 いきいき健康まつり

11月23日前日からの雨も上がり奈良県医療福祉生協 第5回「いきいき健康まつり」がみみなし診療所で開催されました。西側駐車場では、奈良県医療福祉生協の地域委員会やならコープの委員会、コープ自然派奈良、生活クラブ生協などが模擬店を出店されました。また生協ホールでは健康チェック、全労済による保険の見直しコーナーや協同福祉会の介護相談コーナー、檀原スポーツ推進委員による体力測定なども行われました。「楽々ラリー」用紙を持ちながら各ブースを回り、大勢の参加者で途切れることなくにぎわいました。



奈良県生協連のブースでは、奈良県医療福祉生協とすすめている「いつでも健康チャレンジ」で健康に過ごすための取り組みを宣言していただきました。「快眠コース」や「きちんとはみがきコース」など8つのコースに大人131人。「はやね、はやおき」「げんきにあいさつ」など6コースに子ども35人が参加されました。いきいき健康まつりが地域に知られてきたのか子ども連れの若い方の参加が増え、みんなで楽しみながら健康について考える機会となりました。

# 3.11を忘れない

みやぎ生協から  
被災地・宮城のいまをお伝えします

## 住民による見守り活動で安心をつくる

2017年12月5日

阪神・淡路大震災では、仮設住宅や復興公営住宅で誰にも看取られず亡くなり、しばらく経った後に発見される「孤立死」(※1)が社会問題になりました。2010年版高齢社会白書には孤立死は「生存中の孤立状態が死によって表面化したもの」との記述があります(※2)。家族や友人・隣人との接触がない、行政サービスともつながっていないなど、社会的に孤立している高齢者は少なくありません。

東日本大震災発生からもうじき7年、復興公営住宅では、高齢の単身世帯などが地域社会から孤立してしまうことがないよう、様々な取り組みがなされています。

仙台市は「復興公営住宅ワーキング」において、市・区役所関係課や社会福祉協議会など個々の世帯の戸別訪問、保健福祉サービスの提供などについて支援方針を調整するとともに、コミュニティづくりについても連携して取り組んでいます。

コミュニティソーシャルワーカーの大久保環さん(仙台市社会福祉協議会太白区事務所)は、住民主体の見守り活動や交流活動の支援にあたってきました。「復興公営住宅の入居者が、その地域の住民となってコミュニティを形成し、見守りも交流もある程度住民の手でできるようになるまで支援することが、私たちの役目」と話します。

地域で見守り活動を担う福祉委員(ボランティア)は、その一例です。鹿野復興公営住宅では現在3人の福祉委員が月1回、高齢の一人暮らしの入居者を訪問しています。

「玄関先で“変わりありませんか”と声をかけたり、お喋りしたり、いろいろですが、何か変わった事があれば地域包括センターや民生委員さんにつながります」と小野寺桂子さん。「訪問が無くて大丈夫」と言われた場合は、散歩や買い物で会った時に様子を伺うなど、入居者の気持ちに添った緩やかな見守りを続けています。「最近、住民の皆さんも高齢の一人暮らしの方のことを気に掛け、“姿が見えないので心配”“先日会ったので大丈夫”などと、さり気なく見守りをしてくれるようになりました」と話します。

困ったことが起きた時すぐ相談できる相手がいるコミュニティは、孤立リスクの高い高齢単身世帯に限らず、どの住民にとっても安心の材料です。見守り活動は人とコミュニティ、人と行政サービスをつなぐ役目を果たすと同時に、地域の安心もつくっているのです。

※1 現在、孤立死(孤独死)に明確な定義はありませんが、ここでは一般的な見方に従いました。

※2 「第1章/第3節高齢者の社会的孤立と地域社会」(2010年版高齢社会白書：内閣府)



鹿野復興公営住宅で見守り活動を行なう福祉委員の皆さん。  
左から藤原京子さん・小野寺桂子さん・平賀道子さん。  
活動が定着するにつれて訪問を楽しみに待っている住民が増えたそうです。

## 「防災フォーラム2017」が開催されました

「防災フォーラム2017」が11月30日に「発災時の初動を学ぶ～各団体の強みを活かした取り組みに向けて～」をテーマに開催され、防災プラットフォーム構成団体から83名が参加しました。

第1部は、「被災地における「初動」の重要性」をテーマに、岡村こず恵さん（社会福祉法人大阪ボランティア協会事務局次長）が講演され、奈良県防災統括室と奈良県青少年・社会活動推進課から「奈良県における初動の想定について」報告されました。第2部は、「奈良防災プラットフォーム連絡会」参加団体における平時の活動と発災時の初動の内容に関する情報交換として、「奈良県市町村社協事務局長会」「市民生活協同組合ならこープ」「奈良県民生児童委員連合会」「日本青年会議所近畿地区奈良ブロック協議会」「天理教奈良教区災害救援ひのきしん隊」からの報告のあと、参加者による交流がおこなわれました。



◆主催：奈良NPOセンター、近畿ろうきん地域共生推進室 ◆共催：奈良防災プラットフォーム連絡会

## 「なら女性活躍推進倶楽部」が設立されました



県内企業・事業者による女性人材の確保・定着をサポートするため、県内企業・事業所が会員登録をし、行政・関係団体とともに、男女共に働きやすく、働き甲斐のある職場づくりに取り組むことを目的に「なら女性活躍推進倶楽部」が12月19日設立されました。

そのキックオフイベントとして「女性活躍推進倶楽部トップフォーラム」が、奈良春日野国際フォーラム 薨において250名が参加し開催されました。設立宣言の後、荒井正吾知事と株式会社ディー・エヌ・エー南場智子会長、損害保険ジャパン日本興亜株式会社西澤敬二社長により「『奈良が興すムーブメント!』～女性が活きる経営戦略～」をテーマに話し合われました。

奈良県生協連も「なら女性活躍推進倶楽部」の支援団体に登録されました。会員生協でも女性活躍推進倶楽部の会員登録をしています。

## \* 第4回なら消費者ねっと・奈良県消費者行政懇談会 \*

12月19日、特定非営利活動法人なら消費者ねっとと奈良県消費者行政懇談会が開催されました。県からは姫野隆昭課長はじめ消費・生活安全課及び奈良県消費生活センターの皆さんが参加され、なら消費者ねっとの会員・役員等と意見交換しました。なら消費者ねっとは今年度奈良県から「消費者利益擁護支援事業」の委託をうけ、問題のある事業者に改善を求める活動をすすめており、その状況報告もありました。条例の告知改正による訪販お断りステッカーの効果についてなど、活発な意見が出されました。



## 10月

- 1日 自然エネルギー学校・なら2017(第1回)
- 6日 近畿地区生協府県連協議会
- 13日 再エネ施設見学会
- 13日 近畿地方化石石油ガス懇談会
- 18日 滋賀県生協連来訪・交流
- 19日 広島県生協連50周年記念式典
- 25日 上半期監事監査
- 29日 自然エネルギー学校・なら2017(第2回)
- 30日 奈良地区「ろうきん・生協」懇談会
- 31日 ピースアクションをすすめる会

## 11月

- 8日 関西電力との定期懇談
- 9日 奈良子ども食堂ネットワーク総会&学習会
- 15日 大阪ガスとの定期懇談
- 16日 第2回行政・生協協議会
- 16日 奈良県生協連第4回理事会
- 23日 いきいき健康まつり
- 27日 かわかみらいふ視察
- 29日 ピースアクションをすすめる会
- 30日 防災フォーラム2017

## 12月

- 1日~2日 自然エネルギー学校なら2017(第3回)
- 8日~17日 エイブル・アート近畿2017
- 11日 奈良子ども食堂ネットワーク世話人会
- 19日 なら消費者ねっと奈良県消費者行政との懇談会
- 19日 奈良女性活躍推進トップフォーラム
- 22日 健康・省エネシンポジウムin奈良
- 27日 奈良県農政推進会議

## お知らせ

### 第28回 奈良県生協大会 子どもたちの未来と共生社会を考えるⅡ

子どもたちをとりまく厳しい環境とその背景、  
そして解決策を実践者やジャーナリストの視点からお話をお聴きします。

- 開催日時：2018年2月17日(土) 10:00~12:45
- 開催場所：奈良ロイヤルホテル2階 鳳凰の間
- 講演Ⅰ：山科醍醐子どもひろば理事長 村井 琢哉氏
- 講演Ⅱ：朝日新聞大阪本社生活文化部記者 中塚 久美子氏
- 報告：奈良県内のスクールソーシャルワーカー
- 申し込み：奈良県生協連 0742-34-3535



## 編集後記

新しいスマホがしゃべりかけてくるのがうっとうしいので、そのアプリが立ち上がらないように設定を変えてほっとしていたら、今度は突然、パソコンがしゃべりだした。「何かごようはありませんか？」やれやれ、とくに用事はないのだけれど (由)

昨年は、核兵器禁止条約が国連で採択され、ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)がノーベル平和賞受賞することになり、核兵器廃絶を目指す画期的な年になった。核兵器のない世界にむけて更に希望が持てる年となることを願う。(和)

「昨年も忙しい日々でした。しかし、しなければならぬことがあるということには幸せなこと。家族があつてのこと。『心を亡ぼさないように』動くよう心がけねば。」と2年前に書きましたが、あの時よりもさらに忙しい日々。改めて、心がけねばと思いました。(順)

バタバタと一年が過ぎ、また新しい年がやってきました。平成も30年、いろいろなことがありました。次の時代はどんな時代だろうと思いつながら、また今年も一年あつという間に過ぎていくのだろうか。そうだ！ そうならないように計画を立てよう。(佳)